

もみじ台地域小規模校検討委員会では、もみじ台地域の学校規模の適正化を進めるための諸課題について具体的な方策を検討しています。

今回は、第4回（1月14日）検討委員会の内容についてお知らせいたします。

もみじ台地域 小規模校検討委員会ニュース

第4回検討委員会における検討

第4回検討委員会では、これまでの検討経過を踏まえ、通学距離・通学安全などの面から、もみじ台地域4校の校区全体を南北及び東西に分割する統合パターンについて更に検討を行いました（通学距離に関する検討の詳細は、2頁以降をご覧ください）。

南北パターン、

これまでの検討経過

第2回検討委員会では、現在の小学校区を組み合わせた統合パターンについて検討を行いました。その場合、どのような組み合わせでも統合後の学級数や通学距離の面で課題がありました。

そのため、第3回検討委員会では、現在の小学校区にこだわらず、もみじ台地域4校の校区全体を南北及び東西に分割する4つのパターン（右図参照）について検討を行いました。

これらのパターンは、いずれも統合後にはクラス替えが可能な学校規模が見込まれるほか、中心部に位置する学校を統合位置とすると通学距離は2km以内に収まることから、第2回検討委員会で検討したパターンよりも適当であるという意見が数多く出されました。

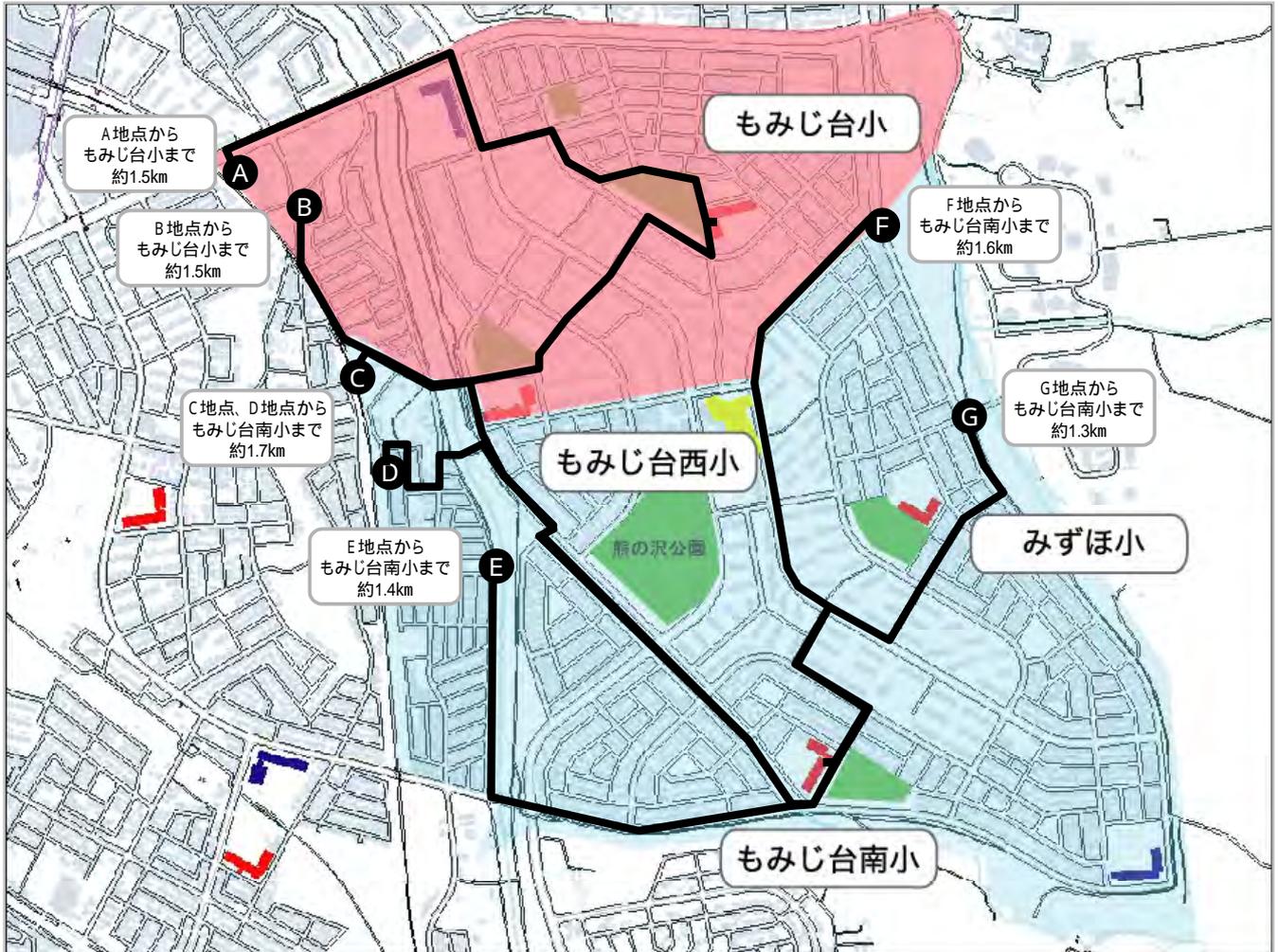
そこで、第4回検討委員会では、南北及び東西パターンをもとに、通学距離や児童数のバランスなどを考慮して、更に検討を行うこととしました。



東西パターン、



南北パターンにおける通学距離



- 注1) 地図は南北パターン を表示 (南北パターン の場合、F地点は北部に含まれる)
 注2) 通学距離は、基本的に学校までの最短経路により算出
 注3) 統合位置は、新しい校区の中心部 (もみじ台小、もみじ台南小) と仮定

通学距離の計測結果

南北パターン

| 計測地点 | 北 部 | | 南 部 | | | | |
|-------------------|--------|--------|----------------|----------------|--------|--------|--------|
| | A | B | C | D | E | F | G |
| 計測地点から統合仮定位置までの距離 | 約1.5km | 約1.5km | 約1.7km (最長) | 約1.7km (最長) | 約1.4km | 約1.6km | 約1.3km |

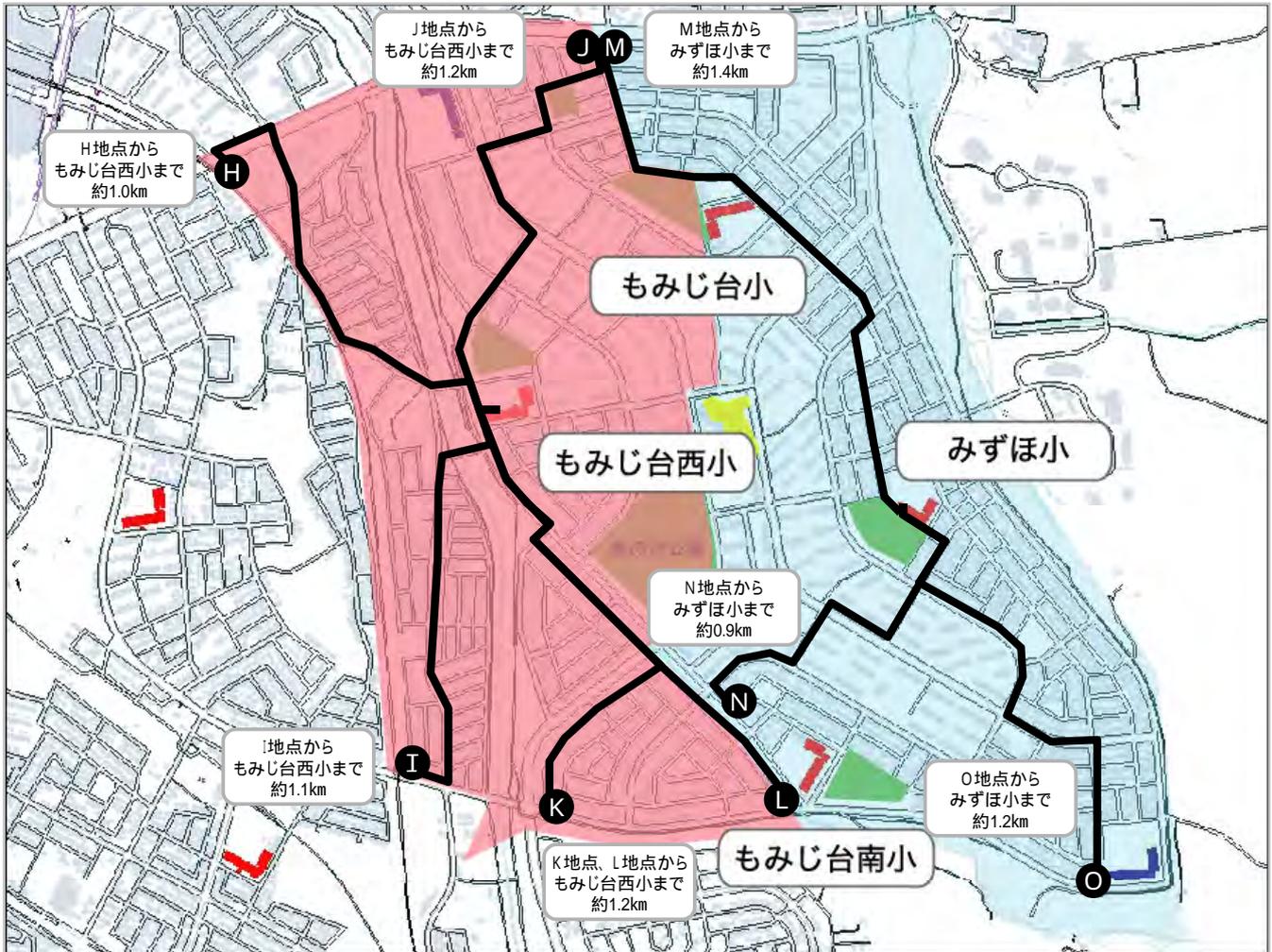
- (北部) もみじ台小を統合位置とした場合、最長距離は約 1.5 km (A及びB地点)
 (南部) もみじ台南小を統合位置とした場合、最長距離は約 1.7 km (C及びD地点)

東西パターン

| 計測地点 | 西 部 | | | | | 東 部 | | |
|-------------------|--------|--------|--------|--------|--------|----------------|--------|--------|
| | H | I | J | K | L | M | N | O |
| 計測地点から統合仮定位置までの距離 | 約1.0km | 約1.1km | 約1.2km | 約1.2km | 約1.2km | 約1.4km (最長) | 約0.9km | 約1.2km |

- (西部) もみじ台西小を統合位置とした場合、最長距離は約 1.2 km (J、K、L地点)
 (東部) みずほ小を統合位置とした場合、最長距離は約 1.4 km (M地点)

東西パターンにおける通学距離



注1) 地図は東西パターン を表示

注2) 通学距離は、基本的に学校までの最短経路により算出

注3) 統合位置は、新しい校区の中心部(みずほ小、もみじ台西小)と仮定

各委員からの主な意見

東西パターンの方が、通学距離が全体的に短く、子どもたちの負担や通学安全面を考えると南北パターンより妥当である(同様の意見複数あり)。

小学校低学年の子どもたちのことを考えると、通学距離が短い東西パターンの方が適当である。

南北パターンとした場合、青葉町の子どもたちが多少遠回りして通学しなければいけなくなる場合があるが、東西パターンの場合はそのような課題も発生しない。

もみじ台地域の高低差を考慮すると、通学距離が短い東西パターンの方がいいのではないか。

南北パターンの場合、E地点からもみじ台南小への通学経路など、人通りの少ない箇所があることから、通学安全上望ましくないのではないか。

南北パターンの場合、もみじ台地域の中で、もみじ台南小学校の位置が南端に位置するため、通学距離が長くなる。

第4回検討委員会で寄せられた意見(抜粋)

細かな校区の線引きについては、なお調整が必要であるが、通学距離等の面から東西パターンを基本と考えていいのではないかと(同様の意見複数あり)。

5年先、10年先を見据えて、地区全体の中で子どもたちにとって通学が便利なところに、一定規模の学校が2つあるということが大事だと思う。

本検討委員会の検討対象ではないが、中学校の校区についても課題があるのではないかと。

子どもたちのためにも、検討はスピード感を持って進めていくべきではないかと。



第4回検討委員会での決定事項

統合後の通学距離や学級数・児童数等の面から、もみじ台地域の統合再編のパターンを東西パターンとする。
なお、校区の細かな線引きについては、更に検討を行う。

第5回検討委員会について

次回の第5回検討委員会(2月19日開催予定)では、4校の再編計画案について更に検討するほか、統合時期についても検討する予定です。

もみじ台地域小規模校検討委員会事務局
札幌市教育委員会 総務部計画課(配置計画担当)
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル5F
TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837
E-Mail haichikeikaku@city.sapporo.jp
検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載しています。
http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/shokibo_kentou.html

もみじ台地域小規模校検討委員会では、もみじ台地域の皆様からのご意見をお待ちしております。ご意見については、メール、FAX等で事務局宛にお送りください。

もみじ台地域小規模校検討委員会に新たなメンバーが加わりました
第4回検討委員会から、新たに下野幌町内会会長の松山瑞穂氏に委員としてご参加いただくこととなりました。